

コミュニケーションの診療ガイドラインの作成

研究分担者	秋月 伸哉	（所属 都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック）
研究分担者	奥山 徹	（所属 名古屋市立大学大学院医学研究科）
研究分担者	藤森 麻衣子	（所属 国立がん研究センターがん対策研究所）
研究分担者	島津太一	（所属 国立がん研究センターがん対策研究所）

研究要旨

患者の意向、価値観を尊重した医療を行うために、適切な患者-医療者間のコミュニケーションが行われることが必要であるが、エビデンスに基づくガイドラインがほぼ存在しない。Minds 診療ガイドライン作成マニュアルにそって令和 3 年までにまとめたがん医療におけるコミュニケーションの知見を、令和 4 年度にガイドラインとして出版、普及啓発を行い、実装研究に関して検討した。

A. 研究目的

がん医療におけるコミュニケーションについて、Minds 診療ガイドライン作成マニュアルにそったガイドラインを作成し、ガイドラインに基づくコミュニケーションの実装、不足しているエビデンスを明らかにする。

B. 研究方法

Minds 診療ガイドラインにそってガイドラインを作成した。コミュニケーションという特殊な医療技術をガイドライン化するにあたり、心理実験や観察研究を推奨の根拠として扱う、コミュニケーションのアウトカムを 3 領域の包括的なアウトカム（直接コミュニケーションに影響を受けるアウトカム、医療行為を介在して影響を受けるアウトカム、社会的アウトカム）として評価する、どのような臨床場面を想定した推奨か注釈をつける、推奨した内容を実践するための技術について推奨文と別に記述するといっ

た工夫を行った。

日本サイコオンコロジー学会におけるガイドライン統括委員会は、奥山徹（委員長、名古屋大学）、稲垣正俊（島根大学）、貞廣良一（国立がん研究センター）で構成され、コミュニケーションガイドライン作成グループは秋月伸哉（都立駒込病院）、藤森麻衣子（国立がん研究センター）、間島竹彦（国立病院機構渋川医療センター）、白井由紀（京都大学大学院医学研究科）、石田真弓（埼玉医科大学国際医療センター）、岡島美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）、浅井真理子（帝京平成大学）、大谷弘行（九州がんセンター）、浦久保安輝子（国立がん研究センター）、畑琴音（早稲田大学人間科学研究科）、岡村 優子（国立がん研究センター）、井本滋（杏林大学乳癌外科学）、森雅紀（聖隷三方原病院）、樋口裕二（島根大学）、菅野康二（順天堂東京江東高齢者医療センター）、下山理史（愛知県がんセンター）から構成され

た。

令和3年1月から11月にかけて関連団体（日本癌学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会、日本サポーターケア学会、日本緩和医療学会、日本在宅医学会、日本がん看護学会、日本緩和医療薬学会）ならびに患者団体（全国がん患者連合会）による修正型デルファイ法による3回の会議と、3回のデルファイ評価を行い、7つの臨床疑問に対する推奨文を確定した。

今年度は開発されたガイドラインの普及啓発、並びに実装についての研究方針の検討を行った。

（倫理面への配慮）

既存の研究のレビューに基づくガイドライン作成のため倫理的問題は発生しない。

C. 研究結果

令和4年6月に「がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン2022年版」を金原出版より出版した。

1) 普及啓発

関連する学会でガイドラインに関する開発報告を行い普及に努めた。

- ・コミュニケーションに関する最新の知見 Year in review 第7回日本がんサポーターケア学会学術集会（2022/6/18-19）
- ・シンポジウム企画：がん治療におけるコミュニケーションについての精神科医の役割、第35回日本総合病院精神医学会総会（2022/10/29）
- ・シンポジウム企画：ガイドライン：コミュニケーション、第35回日本サイコオンコロジー学会総会（2022/10/14）
- ・がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン、第20回日本臨床腫瘍学会学術集会（2023/3/18）

コミュニケーションに関連する研修プログラムにガイドラインの内容を反映させた

- ・がんのリハビリテーション研修（E-

CAREER）

- ・がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（PEACE）
- ・臨床腫瘍学会教育セミナーAセッション・サイコオンコロジー

2) 普及啓発と実装に関する研究の検討

ガイドラインの普及実態調査、実装を推進するための研究方針について議論を行った。

ガイドラインそのものの認知について、主たる利用者である腫瘍医ははまだコミュニケーション技術に対する関心が低いと想定され、腫瘍医が所属する学会等への認知度アンケート調査を実施したところで回答率が著しく低く、関心がある者しか回答しないため結果の信頼性が低いことが予想され、意義が低いと考えられた。

次にガイドラインであつかう介入に対する認知、普及調査を検討した。ガイドラインで扱う介入は、介入プログラム、研修、個別のコミュニケーション技術（余命を伝えるなど）に分類される。また強く推奨される介入（質問促進パンフレット、意思決定ガイド）とそれ以外に分けられた。

強く推奨される介入プログラム2種は、普及調査が実施できる可能性があり、実装を推進する研究が可能である。認知度は低いことが想定されるため、認知度調査ではなく、うまく利用しているチャンピオン施設の同定と、利用にあたっての促進要因、阻害要因を明らかにするインタビュー調査が妥当ではないかと考えられた。

また研修は、すでに研修プログラムが開発されているため研修修了者が増えることが普及実装そのものであると考えられた。

一方で個別のコミュニケーション技術は普遍的なものであり認知度を調査することや、広く浅い介入で実装を促進することが困難であると考えられた。

D. 考察

令和4年度に出版されたガイドラインにつ

いて普及啓発活動を行った。あわせて普及実装についての調査計画を検討した。強く推奨される介入プログラムについて、現在調査計画を立案中である。

E. 結論

がん医療におけるコミュニケーションガイドラインが開発され、次の段階としてガイドラインが推奨する介入の普及実装のフェーズとなった。実装を推進するための研究が今後予定される。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン2022年版. 日本サイコオンコロジー学会/日本がんサポーターケア学会編. 金原出版. 東京. 2022
- 2) Okamura M, Fujimori M, Saito E, Osugi Y, Akizuki N, Uchitomi Y. Development of an Online Communication Skills Training Program for Oncologists Working with Adolescents and Young Adults. J Adolesc Young Adult Oncol. 2023 Mar 27. Epub ahead of print
- 3) Hasegawa T, Okuyama T, Akechi T. et al. Prognostic awareness and discussions of incurability in patients with pretreated non-small cell lung cancer and caregivers: A prospective cohort study. Oncologist 2022; 27: 982-990.
- 4) Hasegawa T, Okuyama T, Akechi T. et al. Specialized palliative care and intensity of end-of-life care among adolescents and young adults with cancer: a medical chart review. J Adolesc Young Adult Oncol. 10.1089/jayao.2022.0078

2. 学会発表

- 1) 秋月伸哉. コミュニケーション技術を学ぶことができるか?. 第35回日本サイコオンコロジー学会総会 2022年10月

- 2) 秋月伸哉. がん医療における患者-医療者間コミュニケーションガイドライン. 第35回日本総合病院精神医学会総会 2022年10月
- 3) 秋月伸哉. がん医療における患者-医療者間のコミュニケーションガイドライン. 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会 2023年3月

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

なし

